

地域の子育て力分科会

取組事業名	子育てサロンの推進	対象	乳幼児及びその保護者、地域活動団体	担当	子ども家庭課・地域保健課
事業内容	地域の民生委員・児童委員、主任児童委員、健康推進員、子育て応援ボランティア等と連携しながら、地域の公民館等で遊びの紹介や情報提供等を行う活動を推進していきます。				
現状	地域の民生委員・児童委員等の子育てサロンの実施状況(平成25年度) ・70回開催、のべ参加人数:1,831人 健康推進員の子育てサロンの実施状況(平成25年度) ・29回開催、のべ参加人数:712人	目標(31年度)	地域の子育て支援者との連携を図りながら、事業の周知に努め、地域の子育て支援活動の推進に努めていきます。		

分科会での意見(付箋)	その他
<ul style="list-style-type: none"> ●人(対象者、実施者、地域の方)についての課題・意見 <ul style="list-style-type: none"> ・地域で子育てをするために地域の人を巻き込む場 ・年1回は保健師に来てもらう ・本当に支援を必要としている人の掘り起こしの方法を広げる ・初めてのサロンや支援センターに来た方に対するフォローをボランティアの方や先生がしているだろうか ・勇気を出して初めて来た方が、「もう行かない」と孤立しないようにしたい ・子育てボランティアの養成 ・講座等の実施 ・孤立しているお母さんのことを他のお母さん達は結構知っているのだから、この情報を主催者側がうまく吸い上げる ・保護者は何を求めているのか(友達?子育て情報?)⇒子ども年齢の共通 ●情報発信について <ul style="list-style-type: none"> ・サロンの周知(現在は回覧板のみだが、回覧板の回らない家庭もある) ・事業について、子育て世代につながっていないと思う(発信方法) ・どのような場所や時間に開催されているかの周知方法は ●場所について <ul style="list-style-type: none"> ・歩いて行ける場・異世代と交流できる場 ・子育てサロンがない地域に作る(久米地区など) ・地域の拡大 ・場所の確保(低料金若しくは負担なし) ・子どもどうし遊べる場所がない ・公民館以外での場所が必要か ・自宅に近く歩いて参加でき近所の知り合いが増えることで、別の場所で会っても気軽に話ができるようになる ●内容について <ul style="list-style-type: none"> ・提供側、受け手側の片道切符になっていないか ・支援を必要とする人をどうつなげるのか ・季節ごとでもいいのでテーマ性を持たせる(「お母さん主役」の会を時々行う) ・地域・ネット等を利用した多様なアプローチ(本当に必要な人に提供) ・自主的に立ち上げるための支援が必要 ・サロン事業の在り方と事業内容の意味を明確に ・年齢別の取り組みを、キラキラ等でもすると良いと思う ・3会場の曜日を考える(休日に参加できるように) ・未就園児の親は工作や読み聞かせ等、何か教えられることを求めていると思うが、支援センターでは自由遊びばかりでグループ化するばかりである ・来場者の相談内容・件数はどの程度か ・公私格差と公職の方々の配置が公立方向 ・金銭的な支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア任せでは大変ではないか ・公共施設をどうしたら使えるのかのサポートが必要(場所、申請) ・民生委員や既に活動している方を紹介してもらえる仕組みがあると良い ・顔と顔のつながりが大切であり、見守り事業を行っている民生委員等とのつながりは大切である ・サークルを自分で作り上げる支援が必要 ・子どもの年齢とともに知りたい事が変わってくる ・年齢が違っていると知りたいことが違う ・サークルがたくさん立ち上がる事が理想ではないか。 ・ひとりでは入りづらい ・フェイスブックの活用も考えられる 一人で行くと入れない ・フェイスブックを活用している交流している ・サロンは、支援センターからの出前保育ではないのか ・母の集団が年齢で別れるのがよくわかる ・公には参加している民生委員の方が民には参加しておらず、ボランティアの方も独自に探している(公と民の格差) ・サロンの参加人数は、ぽかぽかが開設したことにより、大山田では減少している ・サロン事業の見直しの部分はたくさんあるように思い、先を見て実施方法を検討しなければいけない。 ・サロンのような事業に出てこれない方が問題を抱えている。 ・いろいろアプローチをしないと本当に必要な人に支援が届かない <ul style="list-style-type: none"> ●課題整理 <ul style="list-style-type: none"> ・人的、体制、質、場所、 ・サロンと支援センターは大きく重なり実施場所が異なるだけ ・行政側の都合でわかれているが内容は同じ ・事業が細分化されすぎている

取組事業名	子育て支援センター事業	対象	乳幼児及び保護者	担当	子ども家庭課
事業内容	子育て親子の交流を行う常設の場を開設し、子育て情報の提供や相談に応じ、保護者同士の交流のきっかけづくりや子育ての不安や悩みの軽減につなげます。				
現状	子育て支援センターの状況(平成26年4月) ・実施か所:7か所	目標(31年度)	ニーズに対応した体制を確保するとともに、一部の子育て支援センターでは「利用者支援事業」を実施し、センターの機能強化を図っていきます。		

分科会での意見(付箋)	その他
<p>●子育て支援センター事業について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域による子育て感が違う ・旧市内・旧市外との私立格差を感じる ・課題を明確にするための調査が必要(人数だけでなく、どのような方が参加しているか 一人なのか、友人となのか) ・事業の統合化が必要(サロン、出前保育、あおぞら出前保育の区別が不明確) ・市民には区別がわからないので、サロンの中で子育て支援センター事業を行ってはどうか。 ・支援側の負担はないか(ボランティアの方など) ・マタニティセミナー等で支援センターの紹介 ・赤ちゃん訪問でガイドブックを配布する際に、支援センターの紹介をしてもらっているのか <p>●相談体制について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の方の悩みなどは、児童委員から吸い上げたりしているのか(体制づくりをはっきりさせる) ・子どもの相談ができ、状況によっては他につなげていく ・いつでも行けて相談できる体制か(専門職の関わり) ・不安や悩みの軽減になっているか <p>●実施内容について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営内容の検討が必要ではないか ・自由遊びだけでなくテーマを持った遊びを先生主導で30分くらい出来たら良い ・初めて来た人が交流できる仕掛けを作る(知り合うためのワークショップなど) ・ニーズ調査に、手遊び、読み聞かせの時間を帰る前ぐらいにしてほしいとあったが、良いと思う ・交流場には良いが、子どもを見る力、見守る姿が薄い感じがする ・母の学びの場が毎日あると良いし、その時、赤ちゃんを少し見てくれたりすれば母は例え少しの時間でもリフレッシュできる ・子育ての不安や悩みを話し出しやすい環境ではなく、自分の子どもについて回り、子どもの遊びにつきあってばかり <p>●利用者について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育てだけの問題を抱えている人が多いわけではなくっており、介護も抱える人がいるので、その対策を踏まえる ・支援センターでの仲間づくりの充実(利用者の孤立化を防ぐ) ・支援センターを保育園、幼稚園と同様に思っている方がいる ・未就園児しか利用できない(兄弟がいる場合など、共に遊べない) ・市外の人の利用枠を広げる ・在園時の利用(未就園児の兄弟がいる保幼の在園時) 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者数には、児童の数も影響する ・エリアによっても変わる ・地域で相談できるのであれば、わざわざセンターまで行かなくてもよい ・多度は子どもの数が少なく、親同士や子ども同士が知り合えないから、園庭開放や支援センターやサークルに行ってもらった方が良いと思うが、必ずしも同じ所に行っていないようである。 ・アンケートでは、伊曾島の方は車でないと行けない。久米にもないと書いてあった ・歩いていける距離にあれば、子育て支援センターを必ずしも作らなくても、サロン事業をやるのも方法である。(センター設置には経費がかかる) ・未就学児の利用に関しては、キラキラ及びぼかぼかにおいて、土曜日は利用していただけます。 ・市内条件は取り払い、必要であれば受け入れるべきではないか。 ・市外の者へは税金を使わないという発想だが、お互い様ではないか <p>●課題整理</p> <p>市内一体で公平感を持ってできるような体制が必要 事業の総合化が必要、支援側の体制が必要 相談者の相談を次につなげる 事業内容を考える 利用者の選定</p>

取組事業名	地域子ども育て合い懇話会(仮称)	対象	子育て支援関係者、地域活動団体等	担当	子ども家庭課
事業内容	コーディネーターを中心に、主に就学前の子どもを対象とした施設や民生委員・児童委員、子育て支援活動団体等が参画した懇話会を開催し、地域課題の情報収集や関係者の連絡調整を行い、地域ぐるみの子ども・子育て支援推進の環境づくりに努めていきます。				
現状	新規事業	目標(31年度)	一部地域でのモデル実施を経て、市内各地域での実施を目指していきます。		

分科会での意見(付箋)	その他
<ul style="list-style-type: none"> ●位置づけ <ul style="list-style-type: none"> ・懇話会の位置付けは ●何をするとところ <ul style="list-style-type: none"> ・地域の課題を共に考える ・他地域の事例を情報交換できるつながりをつくる ●懇話会の地域分け <ul style="list-style-type: none"> ・地域の区切り方 エリアが不明 ・中学校単位？ ●コーディネーター <ul style="list-style-type: none"> ・コーディネーターを作ることが必要 ・コーディネーターは誰？学識経験者？ ・行政でなく地域の方が良いが宛職の方は忙しくて大変である ●参加者(対象者を決める) <ul style="list-style-type: none"> ・宛職の方がどこにも参加するのは大変であり、地域に根差すためには広く引き出すことが必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・行政として懇話会の位置づけはどう考えているのか。事業をしていく中での桑名市として施策の中での位置づけがわからない。 ・意見をもらって反映する会なのか、計画内容ではよく分からない ・懇話会の内容は、市に答申するのか、しないのか。 ・地域の課題を集まったメンバーの中で解決していくのではないか ・これを核にして子どもに対する地域の課題が見えるというはあると思う ・読み聞かせの人が欲しい時に、知っている人を紹介してもらえたりとか。 ・まちづくりのためには、支援センターの職員ではなく地域の人を中心にしないと難しいのではないかと思う。職員が変わると終わってしまう。 ・コーディネーターに専門職としての力が求められる ・高齢者が多く子どもの少ない地域で問題を解決しようと思っても、コーディネーターや支援センターの人では出てこないと思う。 ・必ずしもコーディネーターを配置するのではなく、各地域ですでに取り組んでいる子育て支援の事例を出し合い、活用する仕組みづくりができないか。 ・未就学児に限らず対象を広げた形がいいですね。 ・地域の単位は中学校単位が良いと思う。 ・単位が小さすぎても地元の雑談で終わってしまわないか。 ・コーディネーター誰がするのか。民生委員や主任児童委員であるとする大変である。 ・いつも同じ宛職の方ばかりで忙しすぎて大変。人選は難しい。 ・地域の関係者の方と顔を合わすだけでも意味のある事だと思うので、まずはやってみて、その中で課題を見つけ考えても良いのではないか。